



2016年度戦略的国際連携活動計画と 受容性醸成活動

1. 戦略的国際連携活動海外派遣計画
2. SIP-adus Workshop 2016企画
3. 市民受容性醸成活動企画
4. 国際的に開かれた研究開発環境の整備企画



2016年2月24日

特定非営利活動法人 ITS Japan

自動運転プロジェクト 内村孝彦



今後の国際連携活動の進め方



■ 活動分類

1. 技術活動

1. SIP-adusとしての発信
 1. セッション、セミナー登壇による発信
 2. インターネット、投稿などによる発信
2. 技術会議、ワークショップ等での議論への参画と解決に向けた活動の推進
 1. SIP-adus Workshopへの参画
 2. 他国際会議Workshopへの参画
 3. 国際連携開発の実施

2. 受容性醸成活動

1. メディアを通じた活動
 1. メディアミーティングの実施
 2. 各種取材への対応
2. 利用者との交流
 1. 一般イベントなどの交流会参加
 2. パンフレット、インターネット情報などによる発信

3. 国際的に開かれた研究開発環境の整備と国際標準化の推進

4. 国際パッケージ輸出体制の構築



技術会議、ワークショップ等での議論 への参画と解決に向けた活動の推進



■ 海外での国際会議、Workshopへの参画

☞ 年度計画を策定し、リソースを確保:P5, 6

■ 戦略的国際連携活動計画に基づき、達成すべき課題、時期を 明確にし、解決に取り組む

☞ 各領域で活動計画を作り、会議参加毎にアップデート

■ 適宜新規領域へ対応拡大

➤ 候補1: Roadworthiness Testing

■ SIP-adus Workshopの進化

☞ 2016年企画案



課題窓口



【Dynamic Map】

白土良太(Ryota Shirato)
日産自動車モビリティ・サービス研究所 主任研究員

【Connected Vehicles】

小川 伯文(Norifumi OGAWA)
マツダ株式会社 R&D技術管理本部開発調査部 主幹

【Human Factors】

北崎智之(Satoshi Kitazaki)
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 自動車ヒューマンファクター研究センター
研究センター長

【Impact Assessment】

内田信行(Nobuyuki Uchida)
一般財団法人日本自動車研究所 安全研究部安全基盤グループ グループ長

【Next generation Transport】

川本雅之(Masayuki Kawamoto)
筑波大学 教授

【Security】

谷口 覚(Satoru Taniguchi)
トヨタIT開発センター 代表取締役社長

■ 今後窓口設定が想定されるテーマ案

➤ Roadworthiness Testing



自動運転主要関心事に対する対応状況



関心事	欧州	米国	日本の対応
実用化に向けた進め方	○		対応要議論
法律の必要性	○	○	対応要議論
Roadworthiness Testing	○	○	対応準備中
接続性	○	○	SIP-adus C-ITS
デジタルインフラストラクチャ	○	○	SIP-adus ダイナミックマップ
ヒューマンファクター	○	○	SIP-adus HMI
効果評価	○	○	SIP-adus Impact Assessment
信頼性	○	○	各社
サイバーセキュリティ	○	○	SIP-adus セキュリティ
機能安全、電子コントロールシステム	○	○ NHTSA	各社
ポリシー		○	対応要議論
基準の調和		○	各窓口よりアクション
アクセシビリティ	○	○	SIP-adus 次世代都市交通

赤字は3極会議議題

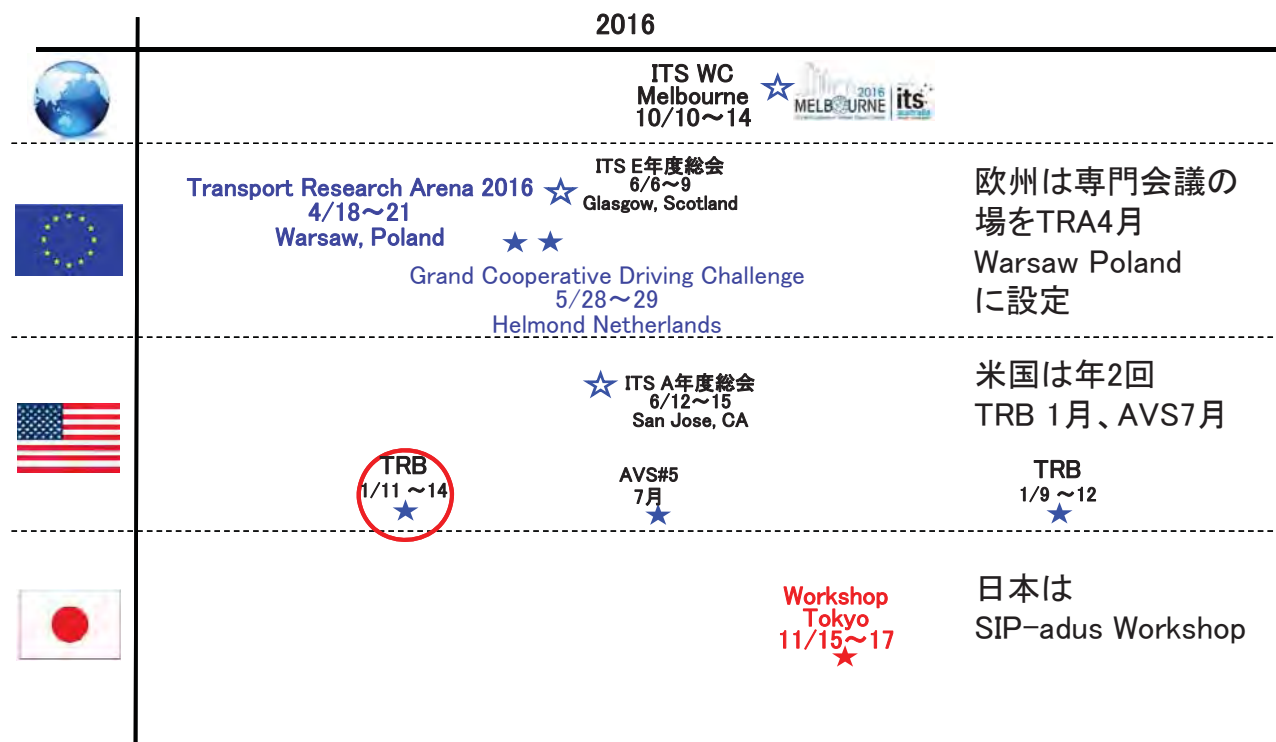
4



2016年の主要会議



■ 3地域での会議を活用し、課題の解決に取り組む



5



- 下記主要会議への参加を計画
 - ダイナミックマップとHMIは標準化関連会議への参加可能性有
- (○): 参加するが費用は別引き当て
△ : 参加検討中

担当領域	名前	TRA Warsaw 4/18~22	GCDC Helmond 5/28~29	標準化 関連会議 未定	ITS Europe Glasgow 6/6~10	ITS America San Jose 6/12~15	AVS San Francisco 7/18~22	ITS WC Melbourne 10/9~14	標準化 関連会議 未定	TRB Washington DC 1/9~13
ダイナミック マップ	白土良太			△			○	△	△	○
Connected Vehicles	小川博文	○	△				○			○
Human Factors	北崎智之			△			○	○	△	○
Impact Assessment	内田信行						(○)			(○)
Security	谷口 寛	○					○	○		○
次世代 都市交通	川本雅之						○			○
Roadworthiness Test	新テーマ						○	△		○
国際連携WG 主査	天野 肇					(○)	○	(○)		○
国際連携WG 副主査	内村孝彦	○	△		○	△	○	○		○

6



技術会議、ワークショップ等での議論 への参画と解決に向けた活動の推進

■ SIP-adus Workshop 2016企画

- 2015年度実施会議場にて実施
- 2015年度実施試乗会に変え、SIP-adus施策成果発表を実施
- SIP-adus施策成果発表は下記を中心に実施
 - ✓ 展示
 - ✓ セッション発表
- Breakout Workshopを充実強化
 - ✓ 専門家間の議論時間拡大
 - ✓ 成果報告会時間拡大
- 2017年実証実験デモンストレーションにつなげた活動の推進
- 利用者受容性活動を取り込んだ活動に拡大
 - ✓ 利用者受容性拡大を狙う活動に進化
 - ✓ インターネットの活用含め年間活動として実施



- 2016年度当初から要活動開始
- 2016年から2017年につながる2年計画

7



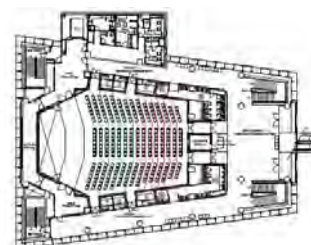
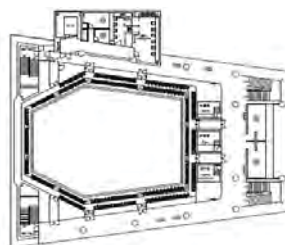
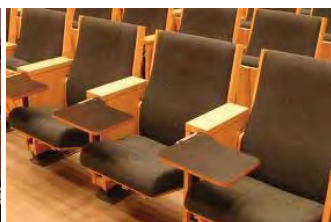
SIP-adus Workshop: 2016年度開催候補地

会場：東京国際交流会館 プラザ平成 @お台場 青海地区 国際交流会議場

<http://www.jasso.go.jp/tiec/plazaheisei.html>

※国際交流会議場: 479席(1階 279席、2階 139席)

※最寄駅: ゆりかもめ 船の科学館駅



8



SIP-adus Workshop: 2016年度開催候補地

会議室2

ホワイエ(レセプションエリア) 立食形式: ~250名



広さ: 38平方メートル

天井高: 2.55メートル

座席数: スクール 36
コの字 36



会議室2平面図
(印刷用: PDF: 226KB)

設備

インターネット接続
マイク
ホワイトボード
カセット
TV
VTR
演台
花台



会議室4



広さ: 45平方メートル

天井高: 2.55メートル

座席数: スクール 18
コの字 18



会議室4平面図
(印刷用: PDF: 464KB)

設備

インターネット接続可能
マイク
ホワイトボード
カセット
TV
VTR
演台
花台



9



10



セッション案

■ オープニング

- 例年通りVIPを招きたい:事務局が招聘

■ セッションテーマ:継続課題と新規、入れ替えより6テーマとする

- Dynamic Map
- Connected Vehicles
- Next Generation Transport
- Human Factors
- Impact Assessment
- セキュリティ

◆ スピーカーは窓口担当中心に選定

■ 新規テーマ候補

- 歩行者保護:重要5課題
- 大規模実証実験:2017年の重要課題
- Roadworthiness Test:新規課題
- 倫理、制度、責任、法律等の非技術課題

■ Breakout Workshop

- 上記で選定したテーマで実施

◆ メンバーは窓口担当を中心に選定

11



■ 施策報告専門セッションを2件追加

- 施策報告-1
 - ✓ 一般向けセッションとして2日目に実施
- 施策報告-2
 - ✓ Breakout Workshop関連テーマを選定し、3日目に実施

■ ポスター、現物展示

- 2015年並みなポスターに加え、現物展示を追加



12



SIP-adus Workshop 2016 プログラム案

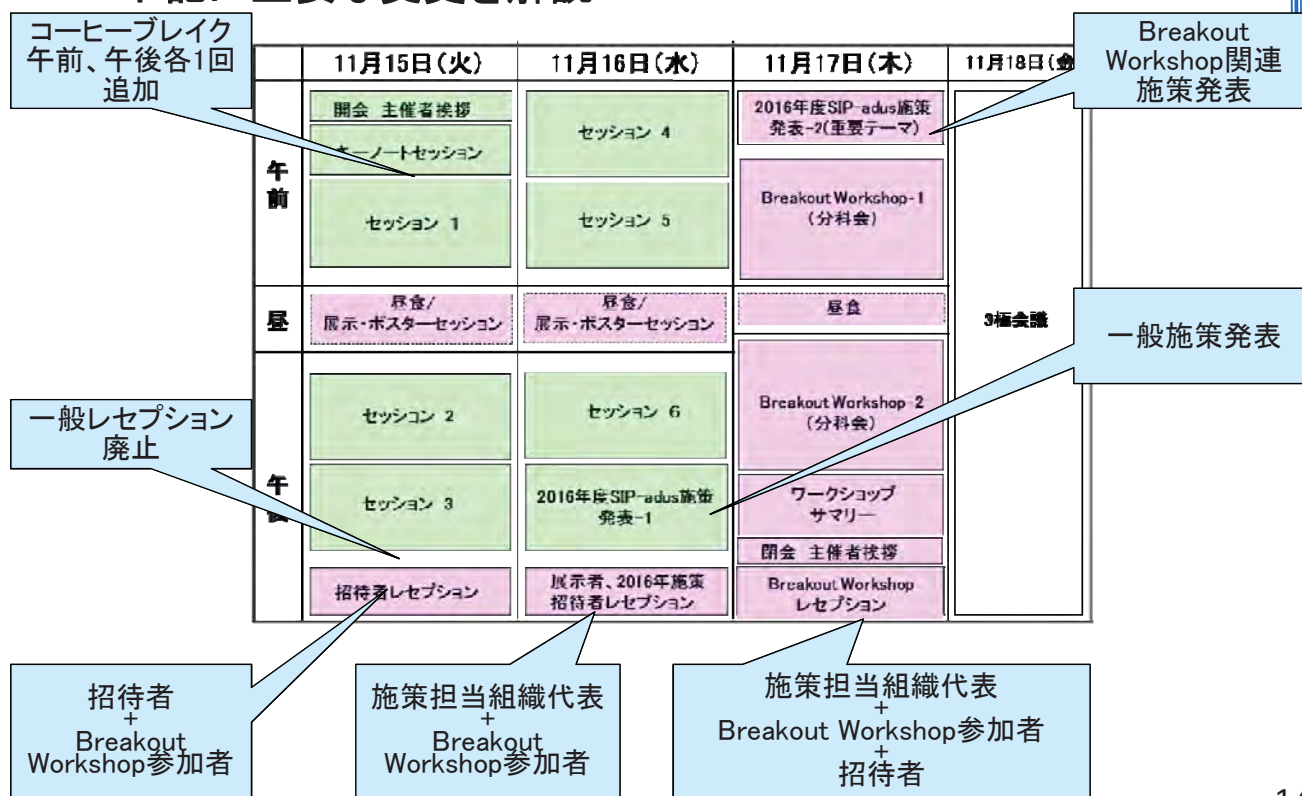


	11月15日(火)	11月16日(水)	11月17日(木)	11月18日(金)
午前	開会 主催者挨拶	セッション 4	2016年度SIP-adus施策 発表-2(重要テーマ)	3極会議
	キーノートセッション		Breakout Workshop-1 (分科会)	
	セッション 1	セッション 5		
昼	昼食/ 展示・ポスターセッション	昼食/ 展示・ポスターセッション	昼食	
午後	セッション 2	セッション 6	Breakout Workshop-2 (分科会)	
	セッション 3	2016年度SIP-adus施策 発表-1	ワークショップ サマリー	
	招待者レセプション	展示者、2016年施策 招待者レセプション	閉会 主催者挨拶	
			Breakout Workshop レセプション	

13



■ 下記に主要な変更を解説



14



市民受容性醸成活動

■ メディアを通じた活動

- メディアミーティングの実施
- 各種取材への対応

■ 利用者との交流

- 一般イベントなどの交流会参加
- パンフレット、インターネット情報などによる発信

■ 関連組織との連携含めた専門活動に進化させる

- 手作りイベントの限界を2015年に体験
- 斬新的な大規模イベント(2017年大規模実証実験展開、2017年SIP-adus Workshopでの試乗会)に向けた準備活動を2016年度から着手

👉 専門組織による受容性醸成イベントを企画

15



市民受容性の醸成活動:2015年度実績



イベント名称	自動車技会 春季大会	ITS World Congress 2015 ボルドー	CEATEC	SIP-adus Workshop 事前ブリー フィング	SIP-adus Workshop	東京モーター ショー	サイエンスア ゴラ	ITS 推進フォーラ ム
時期	5/22	10/4～9	10/7～10	9/17	10/27～29	11/6	11/15	2/18
イベント 概要	春季大会のセッ ション	ITS全般の国 際会議	CEATEC企画 セッションで の登壇	SIP-adus Workshopの 説明	SIP-adus企 画イベント第2 回	TMS企画イベ ントでの登壇	専門セッション 実施	ITS Japanと の連携イベン ト
コミュニケー ションの概要	SIP- adus概要 説明	SIP-adus活 動概要	SIP-adus概 要	メディアの取 材を促す Workshopの 概要説明	技術テーマ毎 のセッション	SIP-adusの 取り組み	自動運転 SIP-adusの 取り組み	自動運転、 SIP-adus活 動Update
対象者	学生、専 門家	専門家	一般	メディア	専門家 メディア	一般	一般	メディア 専門家
説明者	PD	SIP-adus構 成員	SIP-adus代 表1名	国際連携WG	SIP-adus構 成員 海外専門家 その他	PD	SIP-adus 構成員数名	SIP-adus構 成員数名
説明者名	PD	SIP-adus構 成員	内閣府松本 審議官	国際連携WG SIP-adus構 成員	島尻大臣 久間議員 SIP-adus構 成員	SIP-adus構 成員	SIP-adus構 成員	戦略的国際 協調窓口
参加規模	一般約 300名	—	一般 約650名	メディア 約40名	専門家 420名	一般 約400名	一般 73名	一般 約350

16



市民受容性の醸成活動:2016年度計画



イベント名称	自動車技会 春季大会	市民イベント	CEATEC	SIP-adus Workshop 事前ブリー フィング	SIP-adus Workshop	市民/メディア イベント	ITS 推進フォーラム
時期	5/25～27	8月	10/5～8	9月末～10月末	11/15～17	12月～1月	2月(TBD)
イベント 概要	春季大会のセ ッション		CEATEC企画 セッションで の登壇	SIP-adus Workshopの説 明	SIP-adus企画 イベント第2回		ITS Japanと の連携イベント
コミュニケー ションの概要	招待枠への対 応		SIP-adus概要	メディアの取材 を促す Workshopの概 要説明	技術テーマ毎 のセッション		自動運転、 SIP-adus活動 Update
対象者	学生、専門家	一般	一般	メディア	専門家 メディア	一般	メディア 専門家
説明者	SIP-adus構 成員		SIP-adus代表1 名	国際連携WG	SIP-adus構 成員 海外専門家 その他		SIP-adus構 成員数名
説明者名	未定		未定	国際連携WG 各窓口担当	SIP-adus構 成員 各窓口担当		未定
参加規模	学生、一般		一般	メディア 約100名	専門家500名		

17



- SIP-adus大規模実証実験タスクフォース活動の議論を踏まえ、下記を複合した大規模イベント企画を2016年度より取り組む

- 2017年のSIP-adus Workshop試乗会
- 大規模実証実験開始イベント
- 国際的に開かれた研究開発場オープニング
- 市民受容性醸成イベント

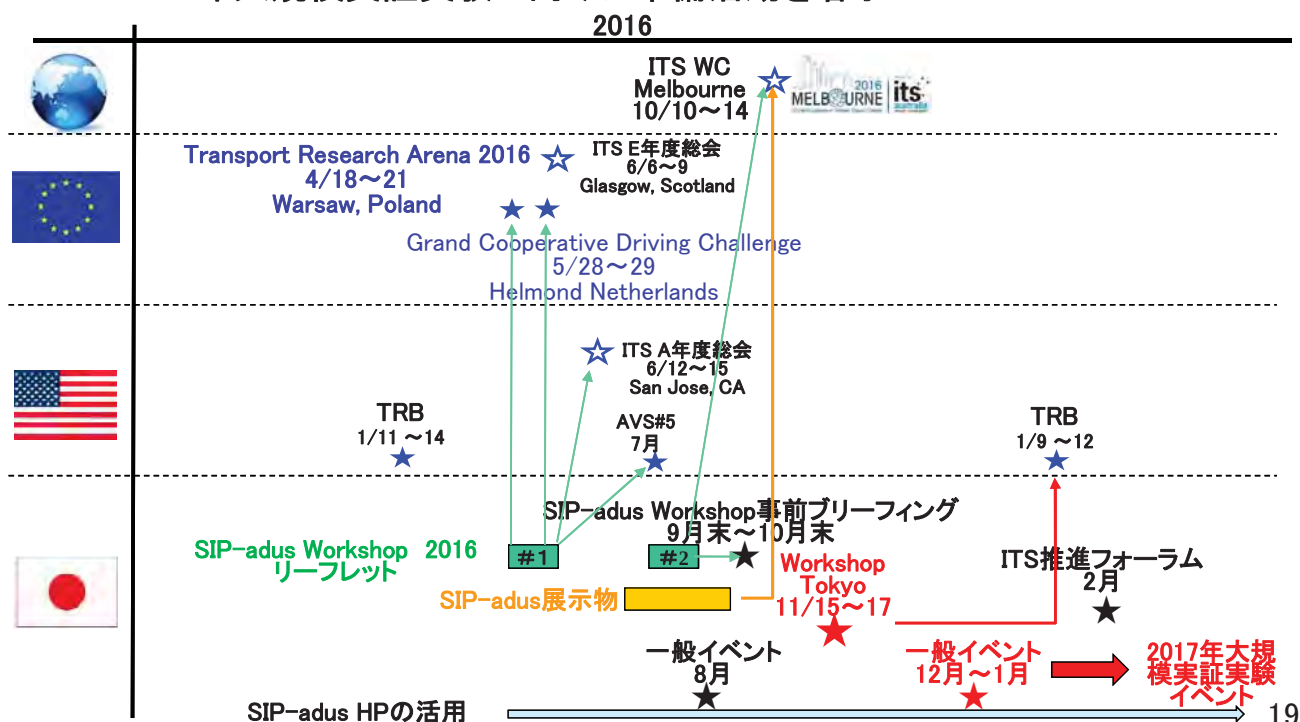
👉 詳細企画検討着手



SIP-adus Workshopと関連会議

- 利用者受容性醸成活動とSIP-adus Workshopを一貫して実施

- HPでの海外発信含め、年間を通じた活動に拡大
- 2017年大規模実証実験に向けた準備活動を着手





END